



# 健康会だより

<主旨と理念>

長谷部式健康会は『自分の健康は自分の努力で』をスローガンに健康普及活動をしている会です。健康は人生最高の宝です。世界人類の健康と平和に奉仕しましょう。『体質別』は健康を守る自然の法則です。

発行所 長谷部式健康会 総本部  
〒491-0905 愛知県一宮市平和1-2-13  
発行人 長谷部茂人  
発行部数 3000部  
tel 0586-46-1258  
fax 0586-46-0367  
Eメール hello@hasebe-kenko.com  
URL http://hasebe-kenko.com/



## 生命、 水と光の 知られざる関係

今号は、東京で行われた講演「情報医療の最先端～水に秘められた可能性」講師:根本泰行(IHM総合研究所所長)から書き写したものです。

今日の話は、水を科学する国際的機関の専門家ジェラルド・ボラック博士と2008年にノーベル医学・生理学賞を受賞したリュック・モンタニエ博士、お二人の最新の研究から報告します。総論としては水が情報を記憶する、或いは媒介するということが科学の世界で証明されたという内容です。

これまでの科学は「物」と「物」が接触して次の反応に進むという前提でした。今日お示しするのは「物」と「物」とがぶつかる前に、波動的、電磁的な波が先に作用して次に進むという事実です。波動的、量子論的世界なのですが、それは同時に人間の体の中でも起こっているという根拠を述べます。

お話の前にIHM総合研究所の前所長、江本勝が取り組んだ、いわゆる「水からの伝言」のことを少しだけ紹介します。

ご存じの方も多いと思いますが、水にモーツァルトなどの音楽を聞かせ、その水を凍らせると美しい結晶になるとか、イルカの写真の上に透明な容器に入った水を乗せる、「ありがとう」「ばかやろう」などと書いた紙を同様に容器に貼って置いておく、そしてできた氷の結晶はイメージを反映したものになるなど、およそ人間の意識や言霊が水に転写されているのではないかというもの。

一般論といえますか、科学の世界ではどうい受け入れられない。まやかしてはないかという人も多かった。それがやや白みを帯びたといいますか、グレーになった、それも蓋然性の高いグレーに。そここのところ順を追って説明します。

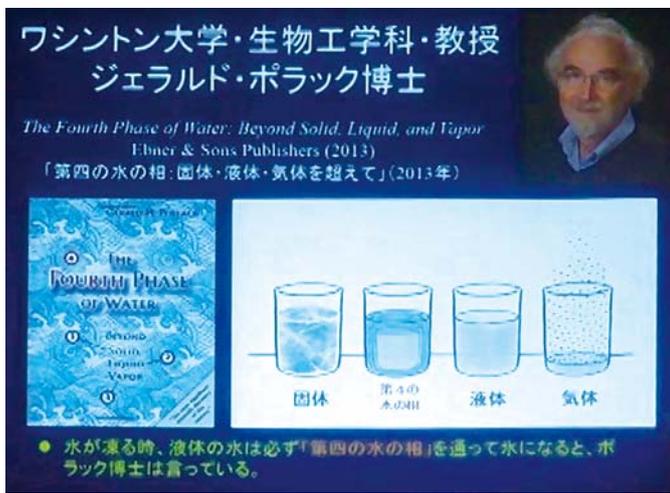
Sanbuichi Spring Water, Yamanashi Prefecture In Japan



<http://biwahonpo.jp/>

### 「水からの伝言」の概要

- 良い水は美しい結晶を作り、悪い水はまったく結晶を作らないことが示唆された。
- 水は、音楽やイメージや言葉や、祈りなどによって、変化する可能性がある。
- 水は愛感謝の波動をもっとも好むようである。



## ジェラルド・ポラック博士

[ワシントン大学、生物工学科教授、第四の水の相：固体・液体・気体を超えて(2013年)] 物理学、化学、生物学、全分野における水に関する国際会議チェアマン。現時点で水に関する科学のトップにいる人。

水は0度以下に冷やすと固体、生活室内など常温では液体、100度以上に沸騰させると気体になることはご存じの通りです。ポラック博士は、その三体を理解するだけでは、本当の水のことを理解できないといっています。

次に説明する第四の相の水のことを知っている人は皆無で、この第四の相の水を理解できていない人は、水のことにはなにも知らないに等しいと博士は言っています。

第四の水の相は、固体と液体の間にある。液体の水が氷るとき、また、氷が溶けて液体になるときは、この第四の水の相を通ります。後で説明しますが、ある特殊な構造を持つ液体と考えていただければよい。

次の写真を見てください。



これは水面に水滴がポタポタ落ちているところです。みなさんもどこかでこのような場面を見た記憶があるでしょう。水滴が水面に落ちた瞬間、いきなり水面にその水滴が融合するのではなく、1~2秒水面の上で水滴の丸い形が保たれます。その理由は、通常、表面張力と言われ

ています。ですけれど表面張力というのは、水滴の1分子もしくは数分子の水の層が特殊な構造をとっているにすぎません。そんなに薄いものでは、このようなサイズの水滴の形を保持できない、というのが博士の見解です。

それからもう一つ。

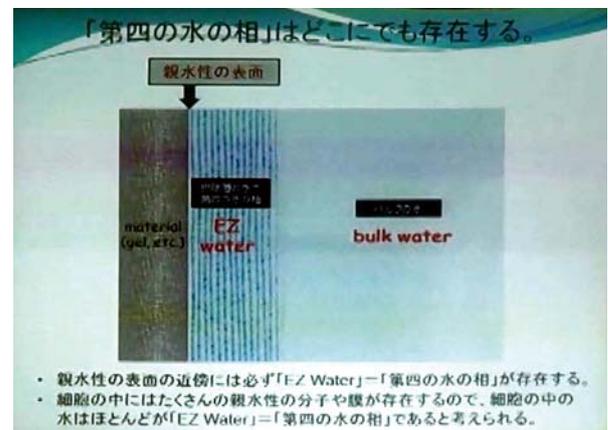
右の写真を見てください。一円玉をそっと水に浮かせているところです。一円玉は水よりも重いので、本当は落ちてしまうのだけれども、これも表面張力があるので支えられるのだとされています。しかし先ほどと同じで、数分子の水の構造が変わっただけでは、本来支えられるはずはありません。



Fig. 16.1 Evidence of water's high surface tension

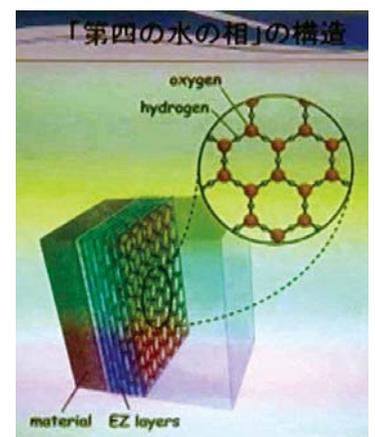
ここで博士の研究から申しますと、そこに第四の水の相が出来ていて、その厚さは約10万分子だということが分かりました。従来、数分子の層という考え方からすると、少なくとも1万倍の厚さがあることとなります。

次の図は、親水性の表面を持つゲル状物質と水が触れ合っているところです。



EZWaterと書いてあるのは、排除層 (Exclusion Zone) の水 (Water) の略で、これを博士は第四の水の相と呼んでいます。

第四の水の相を詳しく調べてみると、分子構造が六角形になっているということが分かりました。その六角形を拡大したのが右の図です。



六角形が1つのユニット。内側の水素原子(二分の一)×6個=3、酸素原子(三分の一)×6個=2、つまり $H^3O^2$ で、その電荷はマイナス1になっている。

count:	
hydrogen	$6 \times \frac{1}{2} = 3$
oxygen	$6 \times \frac{1}{3} = 2$
charge:	
hydrogen	$3 \times (+1) = +3$
oxygen	$2 \times (-2) = -4$
net charge:	-1

第4の水の相は...  
 1.  $H_3O_2$ であり、 $H_2O$ ではない。  
 2. マイナスの電荷を持っている(中性ではない)。  
 ・ Hは+1の電荷を持ち、Oは-2の電荷を持っている。  
 ・  $H_2O$ の電荷は  $2 \times (+1) + 1 \times (-2) = 0$  である。従って、 $H_2O$ は中性である(電荷を持たない)。

普通の水(バルクの水)は中性の $H_2O$ だけれども、第四の水の相ではマイナスの電荷を持つことが特徴です。

調べてみると、この第四の水の相の厚さは約10分の1ミリ、0.1ミリですね。そしてその第四の水の相に接する水は必然的にプラスの電荷を持つと考えられます。ということは、電池になっているのではないか!?!ということである。実際に実験してみると答えはイエス。ランプに光が灯る。



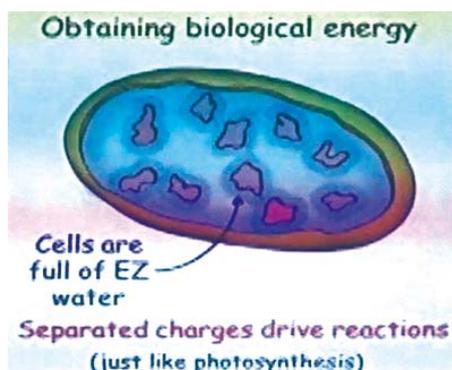
では、いつまでも無限にエネルギーが取り出せるかというそうではない。博士のもとで研究する人が発見したことです。その第四の相を持つ水に光を当てると、その相が厚くなるのが分かった。

ということは光によって充電するという。光には波長の長いもの短いもの様々ですが中でも、赤外線の光がもっとも効率が良いことも分かりました。

私たちの体は細胞できていて、そのサイズは約0.1ミリ。

ということは、細胞の中の水はすべて第四の水の相を呈すると

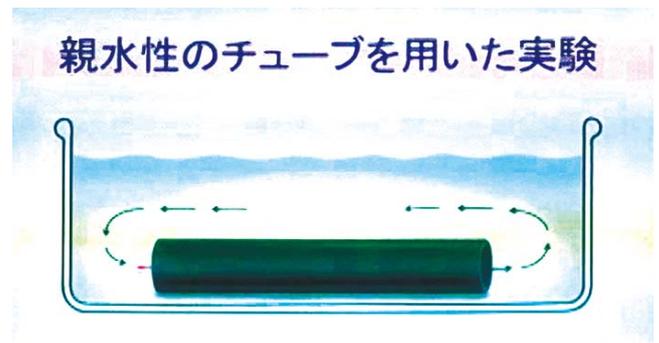
考えられます。http://biwahonpo.jp/



また体には体温があります。従って赤外線も多く放っています。

人間の毛細血管は全長で地球2周余りもあります。細く長く張り巡らされている。毛細血管は赤血球の大きさよりも細いところがあります。そのような毛細血管を赤血球が通るときは、「へしゃげて」通ることも分かっています。これまで心臓のポンプ圧だけでは毛細血管まで血液が流れる明確な説明がつかなかった。

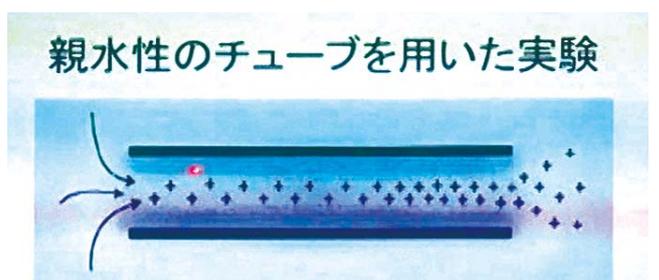
次の実験を見てください。



- 外部からの光のエネルギーを利用することにより、流れが持続する。
- それ以外のエネルギーは必要としない。

毛細血管に見立てた親水性のチューブを水槽に入れて、外部から光を当てるという単純な実験です。どうことが起こるか?なんとチューブの中に水が移動して流れる様子が分かる!

これは先に説明したように、近傍水、つまり第四の水の相に囲まれたチューブの中のバルクの水がプラスに帯電して、その帯電したプラスの水の分子同士がそのイオンの反発で水を押し流しているのです。



- チューブの中心部分では、ヒドロニウム・イオン Hydronium ions ( $H_3O^+$ ) が蓄積する。
- 蓄積したヒドロニウム・イオンは、お互いの間の反発力のために、チューブから外に逃げようとする。
- そのために水の流れが生じる。

血液循環に関しては、人の死後、心臓が停止したあとも数時間は毛細血管で血液は流れ続けるという報告や、リンパ液に心臓は関与していないにもかかわらず循環しているという事実も、これらから説明が可能になりました。

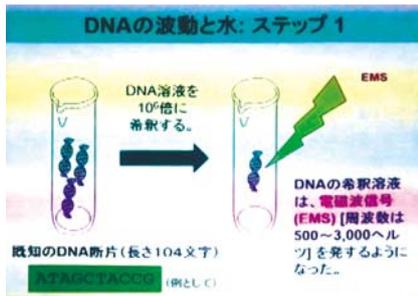
生命と水の関係。それ自体がエネルギー発生循環装置になっている。



**リュック・モンタニエ博士**  
 [エイズウイルス(HIVウイルス)を発見し、2008年ノーベル医学・生理学賞を受賞。DNA研究の専門家]

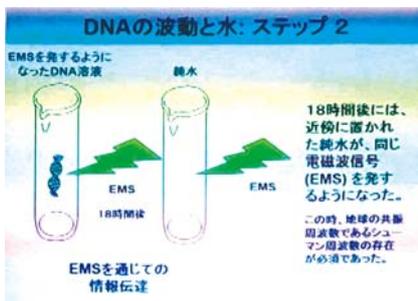
**ステップ1: DNA波動と水(1)**

試験管に事前に用意された1種類のDNAを10<sup>6</sup>倍に希釈します。ものすごく薄い溶液、DNAは数個程度しか入っていないレベルです。するとその溶液から電磁波信号(EMS:500~3000ヘルツ)を発するようになる。これは従前の科学の応用です。



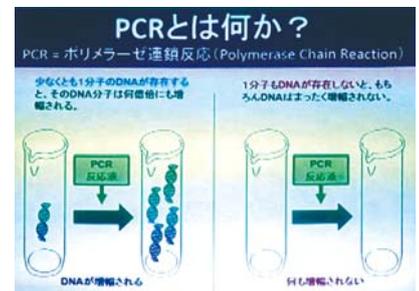
**ステップ2: DNA波動と水(2)**

そのEMS信号を発する試験管のすぐ傍に置いた試験管に不純物を一切含まない純水を入れて18時間放置。結果、純水の入った試験管からも同じEMS信号が発するようになった!



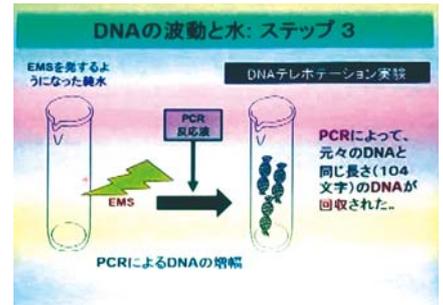
ここで少しPCR法の説明をします。

PCR=ポリメラーゼ連鎖反応(Polymerase Chain Reaction)。1分子以上のDNAが存在すると、このPCR法で何億倍にも、そのDNAを増幅させることができます。この方法は世界中の大学や科学捜査の現場で行われています。もちろん図の右側に示しているように、1分子もなければ、つまりDNAが一つもなければ何も増幅されることはありません。当たり前ですね。



**ステップ3: DNA波動と水(3)**

ここで先ほどステップ2で示すEMSを発するようになった純水にPCR反応液を用いて反応させてみると、驚いたことに元々のDNAが回収された! 博士は同じ実験を22回繰り返しましたが結果は同じといひます。



物質が何も無いはず、電磁波信号だけが移った? 試験管からDNAが発生した! 常識では考えられない結果となりました。情報としての電磁波信号からDNAが作られる。博士はDNAの専門家なので、出てきたDNAの配列を解析しました。すると元々のDNAと98パーセント同一であることが分かりました。

同様の実験をヒトの細胞を使ってステップ6まで行いました。(続きは講演録DVDで...)

水を介して起こる現象。生命の神秘がそこに隠されています。



**映画『ザ・リビング・マトリックス』解説シリーズ 連続講座 DVD(全5巻) 発売中**

1 ~ 5

種々のセラピーが効くメカニズムを“フィールド”と“生体マトリックス”の視点からインフォメーション・メディスン(情報医療)として分析する話題の映画『ザ・リビング・マトリックス』。映画の主要な人物やテーマから5回にわたり専門講師が解説。

- 第1回 “フィールド、と”生命場、
- 第2回 “形態形成場、と”生体マトリックス、
- 第3回 “信念の生物学、と”情報伝達のセンター・心臓、
- 第4回 “ボディフィールド理論、と”万物の統合理論、
- 第5回 情報医療の最先端

■DVD 各2,600円(内税・送料別)

■①~⑤ DVD5巻セット販売 12,000円(税・送料込)

※今号で紹介した根本泰行氏の講演は第5回に収録されています。